

ことばだより



目次

平成 27 年度 新版教科書のご紹介

巻頭随筆 国語教育のあり方と教科書の果たすべき役割……北原保雄 2
国語

「共に生きる言葉の力」を育てる教科書を……………府川源一郎 3
新版教科書の特色紹介…………… 4

書写

言語活動を生かす新版『小学書写』……………鉦持 勉 12
主体的に文字を学ぶ姿勢を育む書写学習……………古市要子 15
資料室…………… 18

国語教育のあり方と教科書の果たすべき役割

北原 保雄
新潟産業大学学長



価値観の多様化、都市化、少子高齢化、国際化、情報化など社会状況の変化がますます進み、国語教育のあり方が根本的に問われる時代になっています。国際化を受けて英語教育が小学校に導入されました。情報機器の氾濫も社会問題になっています。国語教育は、家庭や社会全体においても行われるべきものです。国語教育は、特に小学校段階においては、学校における教育が重要です。

国語は自分の考えや気持ちを伝え、また他人からそれらを受け取るのはたらしきをもっています。それ以前に、国語は、それによって考えを進め、気持ちをまとめるはたらしきを有しています。国語によって知識を豊かにし、論理性を養い、思考を高め、感受性を豊かにすることができのです。語彙力と論理力を養う国語教育が重要です。全ての教科の基盤は国語だといっても過言ではありません。だからこそ、全ての教科で言語活動を充実することが求められているのです。

最近、子どもの孤立化がいられています。「二匹羊」「みんなぼっち」などという言葉ができています。友達の仲間になかなか入れない子どもが増え、大勢集まっても実はみんな独りぼっちだということです。コミュニケーションがうまくできない子どもが増えているようです。

学校における国語教育を行ううえで重要な役割を果たすのが教科書です。教科書は、使い勝手のよさと内容・構成のよさが大切です。使いやすさがないと使ってもらえないだけではなく、使ってもらっても、内容のよさが十分に伝わりません。私どもの今回の『ひろがる言葉』では、この点の改善に特に留意しました。

しかし、もっと大切なのは内容であり、それをいかに構成するかです。今回の『ひろがる言葉』では、目的と見通しをもつて学び確実に習得する、目的に応じて読む力を身につけるなど、学習の目的をより明確にしました。また、漢字習得のための場や語彙を増やす場を随所に設けて表現力を高めたり、学習を日常化するための小教材を設定するなど、内容と構成を一新しました。

教科書は授業の手助けをするものです。この『ひろがる言葉』も、教室でどのように生かしていただけるか期待しています。

きたはら やすお 一九三六年生まれ。新潟県出身。文学博士。元筑波大学学長。主な著書に『ことばの教育』（勉誠出版）、『問題な日本語』（日本語助動詞の研究 新装版）（ともに大修館書店）など。辞典編纂に『明鏡国語辞典』（大修館書店）、『全訳古語例解辞典』（日本国語大辞典 第二版）（ともに小学館）など。

横浜国立大学教授

府川源一郎

横浜国立大学附属鎌倉小学校教諭を経て、現職。著書に『国語』教育の可能性』『ごんぎつね』をめぐる謎——子ども・文学・教科書——（ともに教育出版）など。最近は、明治期の子ども読み物と教科書との関係を研究。

新しい小学校国語教科書は、「共に生きる言葉の力の育成」を願って編集しました。人をつなげる言葉、人を支える言葉、そして何よりも、自分自身の成長を確認することのできる言葉、そうした言葉の学習の体験を、この教科書でぜひ実感していただきたいと思ひます。そのため、次のような編集方針で臨みました。

日常生活へと広がる
豊かで多様な言語活動

学習者は、豊かで多様な言語活動を展開することによって、基礎的・基本的な言語の知識技能を確実に習得することができます。さら

にそれらを活用することで、課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力なども身につきます。豊かで多様な言語活動は、他教科へも広がり、さらには一人一人の日常生活言語生活へと広がっていくことでしょう。国語教科書の学習は、学校生活や社会一般の生活の基盤となるものなのです。教科書の『ひろがる言葉』という書名は、そのような豊かな国語学習が成立することへの願いをこめています。

現代の諸課題に応える
教材の開発と系列化

現代の諸課題に言葉の教育という側面から
 応え、これからの時代の言語生活を切りひら
 いていくことのできる言語主体を育てるため、
 以下のような教材を開発し、系列化しました。
 〈人間尊重〉人権を尊重し、他者の立場に立つ
 てものを見、ともに考えること。

〈国際理解〉国際平和を求め、多元的文化の相互交流を図ること。

〈情報活用〉多様な情報を主体的に収集・選択し、再生産すること。

〈環境保護〉地球規模で環境問題を捉え、それを追究すること。

《自己実現》豊かな人間関係を創造し、その中で個性的に自己を確立していくこと。

《伝統文化の尊重》我が国の伝統や文化を理解、尊重し、それらを継承・発展させること。および各国の歴史、文化を尊重し、国際社会で活躍する日本人の育成を図ること。

「生きてはたらく言葉の力」を育てる
言語活動の系列化

これからの時代に求められる国語力は、「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」と、それらを支える漢字や語彙、文法や表現に關する「基盤となる国語の知識」だといわれています。これからの時代に生きてはたらく言葉の力を育てるために、学習者の関心・意欲を大事にした言語活動を開発して、各学年に系統的に位置づけました。具体的には「基礎：基本単元」（単領域単元）、「関連総合単元」（領域融合単元）、「日常化を図る単元」、「読書単元」、「話す・聞く小教材」「書くこと取り立て教材（小教材）」および「言語取り立て教材（小教材）」などの有機的な配列とその組み合わせによっています。

目的と見通しをもつて学び、確実に「習得」する

●この単元で「何を」「どのように」学ぶのか、「今、何を学習しているのか」、学習の目的とゴールを子どもたち全員が理解して進めることができます。学習のポイントと、活用したい知識・技能を明示して、確実な「習得」を図ります。

単元の目標

この単元で、どのような学習をするのか、子どもたちが親しみやすい言語活動として示しています。

学習のめあて

どのような点に留意して学習するのか、めあて（指導事項）を示しています。

⑤ すじみちを立てて発表しよう
友だちの意見や感想をもとに、自分の発表をいり返りましょう。

話す・聞く

たからものをしようかいしよう

あなたのたからものはなんですか。メモをもちに、みんなにしようかいしましょう。

① しようかいするたからものをえらび、発表メモを書く

木村さんは、発表メモを作って話のじゅんぴをししました。

② グループの中で発表する

木村さんは、メモをもちにグループの友だちと発表し合いました。

漢字
はしげき

学習の進め方

- ① しようかいするたからものをえらび、発表メモを書く。
- ② グループの中で発表する。
- ③ グループの中で意見や感想をつたえ合う。
- ④ クラスで発表する。

68

▲3上『たからものをしようかいしよう』

「木村さんの話」

わたしのたからものは、この四つ葉のクローバーのしおりです。
はじめに、作り方を話します。
まず、四つ葉のクローバーをさがします。見つけたら、数日

「木村さんの発表メモ」

- ① たからもの
・しおり
- ② 作り方
・四つ葉のクローバー

③ グループの中で意見や感想をつたえ合う

木村さんは、グループの友だちから意見や

しおりの作り方が、

まの中心に思ったよ。

うづわかりやすいな。

70

学習の進め方

全員が学習の流れの見通しをもち、単元のゴールを理解したうえで学習を進められるように、学習の展開を示しています。

学習ツール

目的に合わせて活用できるように、さまざまなメモ・カード・ノート例を提示しています。

活用したい

知識・技能

このあとの学習でも活用できる、知識や技能に関する事柄を、何度でも必要に応じて提示し、定着を図っています。

ふり返り

学習をふり返り、「習得」したことを自覚することで、今後の学習での「活用」にもつながるようにしています。

感想を聞いて、自分の話をふり返りました。そして、しおりが「大切なたからもの」だということがつたわるように、発表メモを書き直しました。

友だちの意見や感想をもとに見直した木村さんの話の内容です。よくなったところを見つけてみましょう。

① このしおりは、わたしのたからものです。どうしてたからものになったと思いますか。

理由は、おばあちゃんに教えてもらいながら、自分で作ったからです。

おばあちゃんには、散歩の時、草花を使っていたいろいろな遊びを教えてもらいました。しおりのほかには、草笛や、風車などです。みなさんは、しおりを作ったことがありますか。ちよつと、こちらを見てください。

④ クラスで発表する

木村さんは、書き直したメモをもとにクラスで発表しました。みんなは、木村さんの話を聞いて、よかったことを話しました。

みんなに話しかけるような話したてです。



作り方も見せてくれたので、いっしょに作りたくなりました。

みなさんも、木村さんのれいをさんこうに、友だちにたからものをしようかししょう。

⑤ ふり返り

- つたえたことがよくわかるように、すじみちを立てて話せましたか。
- 友だちの意見や感想をもとに、自分の話を見直せましたか。

「木村さんが書き直したメモ」

- ① たからものしおり

② たからものにえらんだ理由

- （いちばんつたえたこと＝話の中心）
- おばあちゃんに教えてもらいながら自分で作ったから。

③ 作り方

- おし葉にする葉
- 本

● ここが大事

話す前

- いちばんつたえたことをたしかめる。
- 話す内容や話すじゆんじよ（すじみち）を考えて、発表メモを作る。

話すとき

- 聞き手の方を見て、声の調子や強弱に気をつけて話す。
- じつづつを見せたり、よびかけたりして、くふうする。
- 話の中心に気をつけて聞く。

学び合い

子どもたちの感想や意見の例を、内容面・表現面から具体的に提示しています。（自己評価・相互評価）

学習のポイント

「習得」すべき大事な点を、「ここが大事」に系統的に整理しています。

目的に応じて読む力と、読むための技能を身につける

●単元を貫く言語活動をとおして、「問題を解決する力」を高め、子どもたちが主体的な学び手となるように導きます。

まずは、目的をもつて

学習の導入部です。単元冒頭の「単元の目標」「学習のめあて」とともに、学習の目的を理解し、自分の目ざすゴールを確認します。

目的に応じて読み深め

第一次 導入部

たまごの見分け方と、中身のちがいをしようかしよう。

ゆでたまごと生たまごは、どのように見分ければよいのでしょうか。段落のつながりに気をつけて読みましょう。

① ゆでたまごと生たまごの見分け方と、中身のちがいを考えましょう。
(1) 色や形や重さ、回り方、中の様子について、生たまごゆでたまごをくらべましょう。

かじよう書きにして、表にまとめるとわかりやすいね。



中の様子	回り方	色・形・重さ	
		ゆでたまご	生たまご
		・生たまごと同じ。	・ゆでたまごと同じ。
		・軽く回すとわをえがいて回る。	

●ここが大事
写真と文章をむすびつけて読む

二つのたまごは、色も、形も、重さも、ほとんど同じです。



(写真があると) 本当にそうだと、はっきりわかります。

(写真があると) どのようにかをくわえて回すのか、「立ち上がった」とはどうなることなのか、じっさいの様子がわかります。

(2) 75ページ5行めに、「そこで、ゆでたまご生たまごを五つずつ用意して、同じやり方で回してみました。」

▲3下『どちらが生たまごでしょう』

読み深めのためのノート例

学習のためのノート作りは欠かせません。最も基本的なノート例を全ての単元で示しています。

キャラクターがナビゲート

子どもたちが自分で考えるための案内役です。発言例や、回答のための着眼点を伝えます。

しっかり活用

②は、ゴールの言語活動。単元的目的となる活動です。
①の活動で学んだ読みをしっかりと活用します。

①は、ゴールの言語活動である②のための活動です。
教材とじっくり向き合い、読みを深めていく部分です。自分の目的に応じた読みを習得します。

第三次 活用部

第二次 展開部

言葉 線の言葉が表していることがらを、ノートに書きましょう。

●このように、ゆでたまごが生たまごでは、中身の様子が……。 (72ページから73ページ)

●この回り方は、どんなゆでたまごにも、……。 (75ページ)

「れい」 にならって、
使った文を作りましょう。
「れい」 たまごが回る。
たまごを回す。

出る―出す 止まる―止める

10

本を読もう

『みんなて実験 楽しく科学 あそび』(五十かん)
村田 道紀(こうせい) 文
関戸 勇(写真)

色遊びやどろ遊び、光遊び、花遊びなど、身近なものを使って、たかんだん実験をおして、科学のひみつを知るシリーズ。

『よわいかみ つよいかたち』
かこさとし(ちよ・絵)

形をくふうすれば、弱い紙でも強くすることができます。強い形は、町や駅などいろいろな場所に使われています。

『ごおり』
前野 紀(文) 森田 俊行(絵)

どういんな水や、色のついた水を作ることはできるのでしょうか。身近にある水には、どんな秘密があるのでしょうか。

81

② ゆでたまごを生たまごの見分け方や、中身のちがいをしようかいするリーフレットを、グループで作ります。教科書の写真に説明をくわえて、わかりやすくしようかいしましょう。

回してみると、見分けられるんだよね。

なぜ、回り方がちがうのか、理由も大切なね。

写真の順番をくふうしてみようか。

中面

見分け方はこれ！

中身がちがいます

表

同じたまご？

ゆでたまご、生たまごは見ただけではちがいがわかりませんが、……。

うら

リーフレットは、四ページの組み立てで考えよう。

うら

こんなにちがう回り方

中面

表

リーフレット

80

ここが大事

読みのスキルを系統的に位置づけていきます。

子どもたちが、課題を自分で解決していく糸口を示していきます。

言葉

覚えておきたい言葉の使い方を、文脈に即しておさえます。

本を読もう

教材とあわせて読める本を紹介することで、読書の意欲を高め読みの力を育てます。

漢字を確実に読み、書けるようにする
語彙を増やし、「表現力」を高める

漢字習得のための三つの場

①テーマ別の学習で系統的に

②新しく学ぶ漢字はドリル形式で

③前学年漢字は、短文作りをとおして

漢字の広場 ⑥

漢字の組み立て

言葉

■ 次の漢字は、二つの部分に分けられます。——線を引いて分けましょう。

雪 思

かんむり

雪 (雪原・雪かき)

▲ 3下『漢字の広場⑥』

三年生で学ぶ漢字③

■ 次の線の言葉を読みましょう。

① お宮に大きな木がある。

② ゆうびん局まで行く。

⑤ 農地をたがやす。

⑥ 料理に油を使う。

二年生で学んだ漢字⑤

絵の中の言葉を使って、じゆぎょうの様子を文に書きましょう。
れい 黄色の色紙を三角形に切って、いろいろな形に組み立て



▼ 3下『漢字を学ぼう』

漢字を学ぼう (巻末)

新出漢字も前学年の漢字も、必ず書き文字で筆順をおさえます。

漢字を学ぼう

新しく学んだ漢字
読み方 使い方 筆順

28 明日 (あす)	29 立 (たつ)	30 宿 (しゆく)	31 倍 (ばい)	32 宿 (しゆく)	33 宿 (しゆく)	34 宿 (しゆく)	35 宿 (しゆく)	36 宿 (しゆく)	37 宿 (しゆく)	38 宿 (しゆく)	39 宿 (しゆく)	40 宿 (しゆく)	41 宿 (しゆく)	42 宿 (しゆく)	43 宿 (しゆく)	44 宿 (しゆく)	45 宿 (しゆく)	46 宿 (しゆく)	47 宿 (しゆく)	48 宿 (しゆく)	49 宿 (しゆく)	50 宿 (しゆく)	51 宿 (しゆく)	52 宿 (しゆく)	53 宿 (しゆく)	54 宿 (しゆく)	55 宿 (しゆく)	56 宿 (しゆく)	57 宿 (しゆく)	58 宿 (しゆく)	59 宿 (しゆく)	60 宿 (しゆく)	61 宿 (しゆく)	62 宿 (しゆく)	63 宿 (しゆく)	64 宿 (しゆく)	65 宿 (しゆく)	66 宿 (しゆく)	67 宿 (しゆく)	68 宿 (しゆく)	69 宿 (しゆく)	70 宿 (しゆく)	71 宿 (しゆく)	72 宿 (しゆく)	73 宿 (しゆく)	74 宿 (しゆく)	75 宿 (しゆく)	76 宿 (しゆく)	77 宿 (しゆく)	78 宿 (しゆく)	79 宿 (しゆく)	80 宿 (しゆく)	81 宿 (しゆく)	82 宿 (しゆく)	83 宿 (しゆく)	84 宿 (しゆく)	85 宿 (しゆく)	86 宿 (しゆく)	87 宿 (しゆく)	88 宿 (しゆく)	89 宿 (しゆく)	90 宿 (しゆく)	91 宿 (しゆく)	92 宿 (しゆく)	93 宿 (しゆく)	94 宿 (しゆく)	95 宿 (しゆく)	96 宿 (しゆく)	97 宿 (しゆく)	98 宿 (しゆく)	99 宿 (しゆく)	100 宿 (しゆく)
------------	-----------	------------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-------------

さまざまな場で語彙を増やす

てびきで

(1) 『薫風』には、次のように、ものや様子、事柄を二つ以上ならべる言い方がたくさん出てきます。ほかにどのような言い方が出てくるか、ぬき出ししましょう。

例

- 青葉、若葉をわたつくる (16ページ)
- 三方を山に、一方を海に囲まれた (16ページ)

(2) 『迷う』には、「しだいに」「だんだん」「ついに」「ますます」「やっと」「結局」「まだ」など、時間の流れと事柄との間わりを表す言葉が出てきます。それぞれの言葉を比べて、どのような様子を表すのか、考えましょう。

▲ 6上『薫風』『迷う』

脚注で

はんといっても、
に包まれる。毎
のころに引きも
、かくれんぼを
みかん畑の広がる
時は花みかんのか
はかったように思
たろう。帰宅時間
タぐれが近づく
。くれぎわの山
そして花みかん

湯河原 (神奈川県足柄下郡湯河原町)
温暖。ダン
かくわしい
りよう線
たがふる

▲ 6上『薫風』

付録で

言葉の木 (はんたいのいみの言葉)

▲ 2下付録『言葉の木』

教材の中で

「線は、せつめいの仕方をかえところ」

はじめに、工作用紙から同じ大きさの丸い形を二まい切りとり、はり合
わせます。……
そして、すぎな色をぬります。
そうしたら、丸のまん中に十字の線
をうすく引きます。十字の中心から一
センチメートルぐらいはなして、左右
にあなを二つあけます。

◆言葉をつまみよをあらわす言葉
せつめいするときは、
じゆんじよをあらわす言葉を
つかいます。() の言葉
● これから ● それから
● はじめに ● そして
● まず ● そうしたら
● つぎに ● さいに

▲ 2下『おもちゃ大会』をひらこう

書く

聞く人に話の内容がよくつたわるように、みなさんも、話題をきめて、朝の会など

引用して話そう

北原さんのクラスでは、六年生になつての翌年、冬になりまして、発表するときは、本や新聞、雑誌から話を選んで、みなさんも、北原さん「本や雑誌引用した北原さんの発表の例」

「努力は絶対に裏切らない。」
常に前を向いていれば、何がかわると思う。
オリビッドのアスリートたち 内村航
本編第二編 〇〇社 〇〇二
みなさんは、この言葉を聞いてどう思いましたか。
これは、陸上選手の北原さんの言葉です。
ぼくは、「努力は絶対に裏切らない。」という言葉を覚えてきたから、あのようすばやく

ぼくは、将来、野球選手になりたいと思っています。
りまして、後援は、野球選手、スポーツの種目があ
も共通する大切なことだと思います。
ぼくは、自分の夢をかなえるため、また、キャプテンとしての責任を果たすために、野
球が上手になるように努力し続けたいと思います。

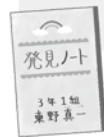
「北原さんのメモ」

- ① 六年生になつての翌年、決意
野球選手になるため、チームのキャプテンとして責任を果たすため、努力を続ける。
- ② 引用部分と出典
「努力は絶対に裏切らない。」常に前を向いていれば、何がかわると思う。
オリビッドのアスリートたち 内村航 第二編 〇〇社 〇〇二
- ③ 引用した理由
「すばやく」速くも「努力する」ことを大切に思っていることに感動したから。

「発見ノート」を作ろう

毎日の生活の中で、何かを発見したり、ふしぎだと思ったりしたことはありま
せんか。そんな発見をしたら、「発見ノート」に書きましょう。
「発見ノート」に書くときには、次のようなことに気をつけましょう。

- ・いつ、どこで発見したのか。
- ・内容をふじかい言葉でまとめて表す「見出し」をつける。
- ・（くわしい内容）
- ・「はてな、どうしてだろう、ふしぎだな」
- ・なるほど、わかった、そうなんだ
- ・思ったこと



東野さんは、朝食の目玉やきを見て、ふと思つたことについて「発見ノート」
に書きました。

- ・四月二十日（月）朝食の時—いつ
- ・自分の家—どこで
- ・「たまごは、どの部分がひよこになるのか—見出し
- ・黄身と白身は、なんのためにあるのかな。
- ・スーパのたまごも、あたためればひよこになるの
かな。
- ・本で調べてみると、「黄身は、ひよこの体の部分で、
白身は、黄身をまもる役目」をしている。



みなさんも、「発見ノート」を作って、身のまわりで発見したことを書きま
しょう。また、みんなに話したり、文章を書いたりするときに、話題がし
のために、読み返してみよう。

▲6上『引用して話そう』

▲3上『「発見ノート」を作ろう』

日記を活用する学習

一年間のできごとをふりかえって

この一年間、いろいろなことについて、文章に書きましょう。そし
て、友だちと読み合つて、一年間をふりかえりましょう。

- ① てきとを思い出して、書くことを
さめる
- 思い出したことを、グループやクラス
で話し合ひしよう。



- ② くわしく思い出して、カードに書
かみやさんは、てきとを思い出して、そのないうをカードに書きました。
- ・自分のしごとや、見たこと
・かんじなどや、考えたこと
そして、書きたいじゆんにならべて、番号をつけた。

- ① たこを作ったこと
・学校で作った。
- ・作るとき、あげるものはじめて、
きんたようした。
- ② たこがかんじいした
・たこ……四角くて青い色、大の輪。
- ③ たこあげ本番
・風がふいたじゆんかん走った。
- ・すぐに地につけてしまった。
- ・かわいさん「風とぎやくに走るといいよ」
- ・言われたとおりになら、うまくあがった。
- ・たこはじめて高くあがった。
- ④ もっとたこあげをしたい
・高くあがっていくのがおもしろかった。
- ・また作って、たこあげをしたい。

高いところへ、
二つや三つ高く
上げておきま
す。

▲2下『一年間のできごとをふりかえって』

言語活動を生かす新版『小学書写』

帝京大学教授

釧持 勉

はじめに

「言語活動を取り入れた書写の指導方法がわからない」「書写と言語活動との関連のあり方がわからない」という学校現場の声をきく。ここでは、言語活動の基本的な考え方と新版教科書『小学書写』との関連を論考することで、その問いに対する一助になればと考える。

文字感覚を的確に表現できる力の育成

国語科でいう「言語感覚」（正誤・適否・美醜）を、書写学習に置き換えると、「文字感覚」となる。その、「文字感覚」を育成するということは、子どもの側から見ると、学習したことがどこまで生活のなかに有効に生かせるか、ということになる。そのため、授業で次のような事項を取り入れることが考えられる。

① 音声言語を最大限に生かした活動を行うこと

例えば、基本点画の書き方について、子ども自身が書写用語を用いて説明することにより、表現する力を育むといった展開が考えられる。

② 国語科の「書くこと」で示されている言語活動例を、書写に取り入れること

「書くこと」の主な言語活動例として、次のような事項があげられる。

【低学年】 経験したことを報告する文、観察したことを記録する文、身近な事物を説明する文、簡単な手紙など。

【中学年】 調査報告文、学級新聞、説明文、依頼状、案内状、礼状など。

【高学年】 意見文、活動報告文、推薦文など。

これらの活動のなかで、書写学習が生かされる場面を明確に位置づけることで、相手や目的に応じて、自分の考えを書くことが可能になるのである。

そして、書写学習で中心的に扱う事項としては、さまざまな文種の書式について、基本的な書き方を学習することである。例えば、報告文や学級新聞の書き方や、文字言語をとおして相手に伝える媒体である「手紙」については、代表的な言語活動という認識で指導する必要がある。



言語活動を取り入れた書写の指導略案

【教材名】書いて つたえよう（お世話になったかたに招待状を書く）

【目標】お世話になったかたに、招待状をすすんで書くことができる。

【指導時間】二時間扱い（本時は二時間め）

【本時の目標】感謝の気持ちをこめて、招待状をすすんで書くことができる。

●横書きの書式に関心をもつことができる。

【展開】

学習活動	指導・支援の展開と留意点
1 目標把握	・「ありがとうございますの気持ちをこめて招待状を書く活動」であることを確認する。
2 前時の振り返り	・前時に考えた招待状の文を読み返して、感謝の気持ちが伝わるか考えて、見直すように促す。
3 書式の理解と内容の確認	【必要事項の確認】相手の名前、前文、日にち、時間、場所、相手への一言、自分の名前 【横書きで書く際の注意】行の頭はそろえて書く、下の線にそろえて書くなど、取り組める範囲内で行うようにする。
4 活動 （招待状を書く）	・配列の学習は三年生以降の指導事項であるので、意欲面を評価する。 ・相手に正確に伝えるという観点から、数字の字形には注意を促す。
5 振り返り （確認をする）	・誤字・脱字はないか、日時と場所は正しいかなど、隣どうしで交換して確認するよう指示する。

【本時の評価】●感謝の気持ちをこめて、招待状をすすんで書くことができたか。

●横書きの書式に関心をもつことができたか。

③国語で扱う文章を視写する活動について、言語活動として捉えること

文学教材の学習において、描写や動作化につながる語句、クライマックスの表現などを視写する活動がある。この活動は、文脈の理解、重要語句の理解などに有効であるとともに、速く書く活動としても機能的でなければならない。また、視写活動は「伝統的な言語文化に関する事項」として示されている古典などに慣れ親しむ点でも有効である。

言語活動がより強化された新版『小学書写』

新版『小学書写』では、国語学習との緊密な連携を図り、言語活動が機能しやすい教材構成を設定し、国語科書写としての位置づけを鮮明に提示している。

①言語活動としての連携を強化

例えば、国語の四年生上巻では、「学級新聞を作ろう」の教材において、記事を決めることから書くまでの活動を扱っているが、書写では「書いて伝えよう」のコーナーで、相手に伝わりやすい書き表し方に焦点化して扱うことで、言語活動としての連携を図っている。

②視写教材の、より一層の充実

新版『小学書写』で扱う国語の視写教材としては、『ごんぎつね』『おにたのぼうし』『雪わたり』など、より定評のある教材を選定している。また、『竹取物語』『枕草子』など、古典の定番教材も多数扱われている。



『ひろがる言葉 小学国語』

4年上巻 p.107

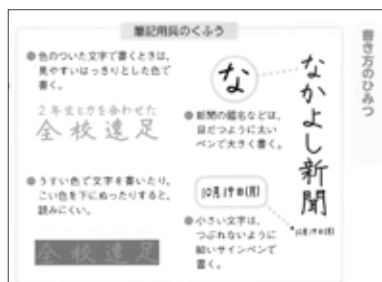


『小学書写6』 p.18



『ひろがる言葉 小学国語』

6年上巻 p.65



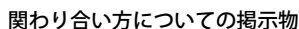
『小学書写4』 p.44

—言語活動の工夫と—CT機器の効果的活用—

要子ようこ

毛筆導入期の学習では、点画の種類や筆使いだけではなく、画の方向や長さ、画と画との接し方にも目を向けるようにさせ、それらが字形や文字の組み立てに密接に結びついていることに児童自らが気づくようにし、児童が主体的に学習活動に取り組めるような支援を工夫していく必要がある。

そこで、学習過程のなかに、気づいたことを話し合ったり、友だちと関わり合いながら練習したりする場合など、言語活動を行う機会を多く設け、文字について考えながら学習が進められるようにした。また、主体的な学習活動を支えるために、積極的に ICT 機器を活用し、児童自らが本時の課題に気づくような資料提示の方法や、動画による筆使いの確認方法、録画・再生機器を活用した振り返り練習の方法などで、支援の工夫を図ることにした。



① 学習環境（場）の工夫

大型テレビやOHC、指導用DVDを視聴できるパソコンなどのICT機器を、教室の前面に設置し、練習者と支援者（次の練習者）がペアになって「話し合い」や「見合い」「認め合い」などの学習を進めることができるようにした。

また、練習を見合う時の関わり合い方については、見合う視点や言葉かけなどについて、児童と一緒に話し合って決めて、掲示した。

(2) 課題把握時の工夫

例えば、「おれ」や「はね」のように、方向を意識して書くことが大切であることに気づかせたい題材においては、「おれ」や「はね」の方向に問題がある文字例と、教科書の教材文字とを、大型TVで並べて映し、ここが問題であるかを話し合させた。児童から発言があった「気づき」は、画面に朱色で書き込み、全体にわかりやすく示すようにした。さらにそのあと、指導用DVDの動画で、「おれ」や「はね」の書き方を動画で確認した。

また、全体で確認した本時の課題と、自分の課題は、教材文字に書き込み、意識して練習できるようにした。



課題把握を共有

問題がある文字例と教材文字とを、大型TVで比較する。

(3) 練習方法の工夫

① 大画面TVを活用した「録画・再生コーナー」

練習の過程では、筆の動きを録画・再生して、穂先の通り道や筆圧、書く速さなどを自分で振り返ることができるようなコーナーを設置した。友達とペアで行うことで、姿勢の確認や認め合いなど、関わり合いながら練習ができた。録画を見たあとは、よい点や課題点を言葉で伝え合うようにした。大型テレビで映しているので、友達の真剣な書きぶりをクラス全体が感じることができた。ICT機器を使用する順番については、「エントリィ板」を活用し、自分が使いたい機器を効率的かつ公平に使用できるようにした。

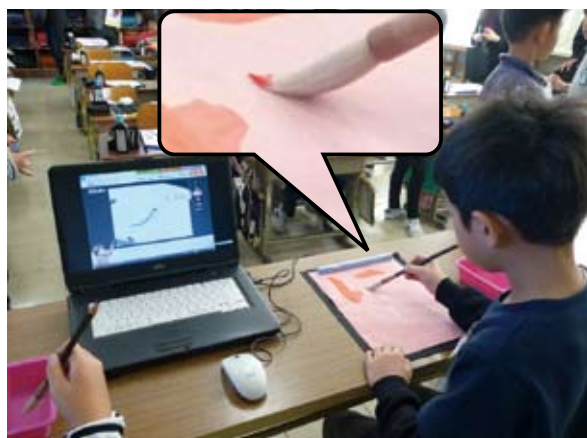


大画面TVを活用した「録画・再生コーナー」

自分の筆使いをOHCで録画する。録画したあとは再生して確認し、よい点や課題点を話し合う。

② 穂先を着色した筆で練習できる「水書紙コーナー」

指導用DVDの動画を視聴することで、穂先の通り道や筆の動きを確認しながら、水書紙で練習できるコーナーを設置した。ここで使う筆は、穂先をフェルトペンで赤く色づけしてあるため、穂先の通り道がわかるようになっていく。次の練習者は、書いている児童にアドバイスしたり、パソコンであらかじめ教材文字の動画を見たりすることができる。墨で汚れる心配がないので、墨の扱いが苦手な児童にとって練習しやすい場を意図した。



「水書紙コーナー」

指導用DVDを見て、穂先を意識しながら水書紙で練習する。



「二色墨コーナー」

指導用 DVD を見て、穂先を意識しながら二色筆で練習する。

③「二色墨コーナー」での穂先確認↓練習
このコーナーでは、薄墨を筆に含ませて、穂先に朱墨をつけて練習する。穂先の通り道がはっきりと確認できるので、正しい筆使いをしていることに自信をもつことができる。「おれ」や「はね」の方向に気をつけているかどうかについても、次の練習者と一緒に確認するようにした。また、このコーナーでも、指導用 DVD を視聴する場が設けられているため、穂先の通り道や筆の動きを確認することができる。

(4) まとめ・振り返りの工夫

まとめ書きは、時間を決めて全員で一斉に行い、心地よい緊張感のなかで、集中して書けるような雰囲気をつくるようにした。

さらに、試書とまとめ書きを並べたファイルを掲示し、自分や友達の練習成果を認め合うようにした。学習カードには、「おれ」「はね」を含む文字の練習ができるようにしておき、学習の最後に「毛筆で練習したことを硬筆に生かす」活動を行うことができるようにした。また、感想を書くことで、理解したことや上達したことが自覚できるようにした。

三 おわりに

全体で課題や基準をおさえる際に、ICT 機器や指導用 DVD はとても効果的であった。教師の範書も見せやすく、また、教室の後方から大型テレビ画面に朱書することができるため、児童の様子や反応を確認しながら授業を進めることができた。

録画・再生ができる練習の場や、穂先の通り道が確認できる練習の場では、一生懸命に練習する児童の姿が見られた。その場で練習成果を認め合う、言語活動をとまなつたかわり合いが、さらなる学習意欲の高まりにつながっていったと考えられる。



振り返りと認め合い

試書とまとめ書きを比べて、上達ぶりを評価する。



課題把握のようす

自分の教材文字に、めあてや注意点を書き込む児童

新版教科書の指導書・教材品

『ひろがる言葉 小学国語』

解説・展開編

▼各学年上下巻各一冊
(CD-ROM付)

○各教材の詳細な内容解説、学習展開例を網羅した『解説・展開編』と、それに即したワークシートを掲載した『ワークシート編』もセット。

朱書編 ▼各学年

上下巻各一冊

○授業に役立つ解説書。授業研究に関する内容と、授業の際に使う情報を色分けして掲載。

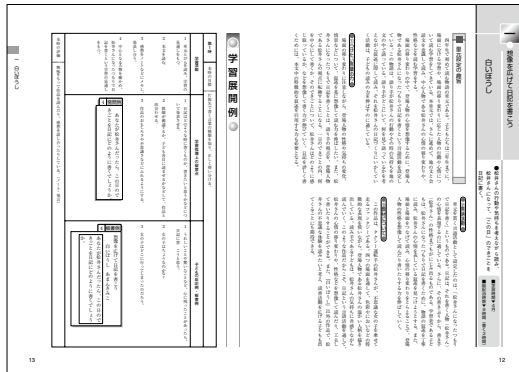
総説編 ▼全一冊 (CD-ROM付)

音声・動画編

▼各学年一セット (CD三枚・DVD一枚・解説書付)

指導案集 ▼各学年一冊

新企画



解説・展開編

『小学書写』

学習指導計画・評価規準 ▼全一冊

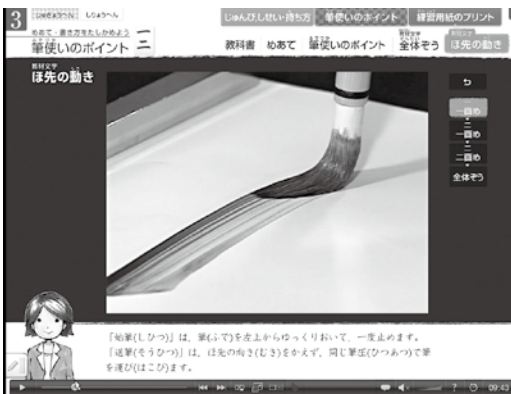
年間指導計画・評価計画案の一覧表を掲載。(全学年)

別冊 (朱書編) ▼各学年一冊

○教科書の紙面に、学習の流れに即した指導のポイントや発問例、書字のポイントなどを掲載。

ワークシート編 ▼各学年一冊

DVD-ROM ▼各学年一枚



※企画中の商品につき、内容・仕様が変更になる場合があります。

語彙力が身につく

小学国語 デジタル教科書 ひろがる言葉（二～六年）

授業で役立つ工夫がたくさん！

一・語句解説機能を搭載

（協力：小学館）

教科書の中で確実に身につけたい語句には、辞書の解説を表示できるようにしました。授業中にいつでも語彙を確認し、辞書を調べる習慣を身につけることができます。



二・漢字の筆順を一新

授業のはじめや振り返りの際によく使われている漢字の筆順も、さらに操作しやすく見やすいように、レイアウトとデザインを一新しました。



三・資料写真・動画の充実

話し合いの様子を動画で確認できることはもちろん、文学教材の舞台や背景のほか、説明文教材の内容理解に役立つ資料写真・動画も充実させました。

四・本文拡大を改善

フォントや文字数を改善し、いちばん後ろの席からでも見やすい拡大画面を用意しました。行間も広くとりましたので、書き込むことも容易です。

指導のポイントがよく伝わる

小学書写 デジタル教科書（二～六年）

授業で役立つ工夫がたくさん！

一・ポイントがわかりやすい動画

毛筆の筆使いのポイントがわかりやすいように、さまざまな角度の映像を収録しました。

運筆の様子と注意点がわかりやすいように、アニメーション、ナレーションも収録しましたので、既習事項の振り返りにも利用できます。

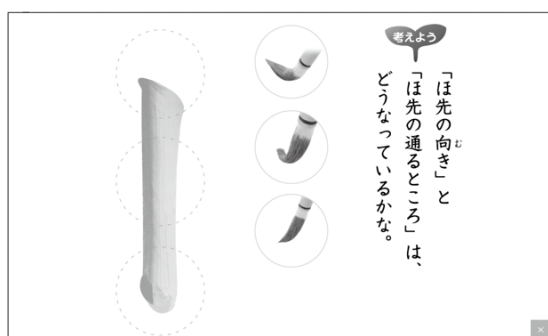


二・教科書の図版が動く

教科書に掲載されている図版が動くことで、子どもの実態に応じた提示の仕方ができ、興味・関心を高めます。

三・授業の流れがわかる

例えば、「導入」を選択すると、導入場面で使用する教科書の該当箇所とコンテンツが表示されるようにし、学習の流れと教科書との対応がわかるようにしました。





監修 大熊 徹
代表編者 細川太輔
井上陽童
石井健介
B5 判 180 ページ
本体 2,200 円＋税



編著者 田近洵一
木下ひさし 笠井正信
中村龍一 牛山 恵
ことばと教育の会
A5 判 304 ページ
本体 2,400 円＋税

「書く」力をつける

学習指導要領に示された言語活動例を取り上げながら、これらをとおしてどのように「書く」力をつけるのかを、具体的な活動とともに示します。

〈読み〉は教室でつくられる

文学作品の授業で何を教えるのか。どのように教えるのか。文学の〈読み〉の授業のつくり方を、『白いぼうし』『川とノリオ』といった教科書教材をもとに紹介します。

小学国語通信 ことばだより〔2014年 春号〕 2014年3月31日 発行

編集：教育出版株式会社編集局 発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光
印刷：大日本印刷株式会社 発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10 電話 03-3238-6864（お問い合わせ）
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町 3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手ビル 5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵 2-11-30 クレセント東福岡 E 室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411